

早熟でモザイク病や倒伏に強い納豆用の 極小粒大豆新品种「すずほのか」



研究のねらい

国産の納豆用小粒大豆は堅調な需要があり、東北地域では極小粒品種「コスズ」が作付けされている。しかし、「コスズ」は納豆加工適性が良好なものの、ダイズモザイクウイルス抵抗性が不十分で、また倒伏しやすく、栽培しにくい。そこで、ダイズモザイクウイルス抵抗性と耐倒伏性を強化し、あわせて早熟化を図り、栽培しやすい納豆用の極小粒品種を育成する。

成果の内容

- ①「すずほのか」の成熟期は、「コスズ」より1～2週間ほど早く、収量は「コスズ」並である（表1）。
- ②「コスズ」よりも主茎長が短いため、蔓化（茎が蔓状になること）や倒伏が少ない（表1、図1、図2）。
- ③ダイズモザイクウイルスに強く、「コスズ」より褐斑粒の発生が少ない（図2）。
- ④子実は極小粒で、納豆加工適性は「コスズ」並に良好である（表1、図3）。

表1 すずほのかの育成地および東北地域における成績

系統名 品種名	成熟期 (月日)	主茎長 (cm)	収量 (kg/10a)	百粒重 (g)
育成地の試験圃場(秋田県大仙市)				
すずほのか	10.05	68	318	9.7
コスズ	10.18	85	316	10.1
東北地域の農試・農家圃場(延べ58カ所)				
すずほのか	10.06	70	287	9.8
コスズ	10.14	84	293	10.3

注) 試験年次は平成12～18年。
百粒重が10g未満の場合、極小粒という。



すずほのか コスズ
図1 すずほのかとコスズの熟期と耐倒伏性の違い

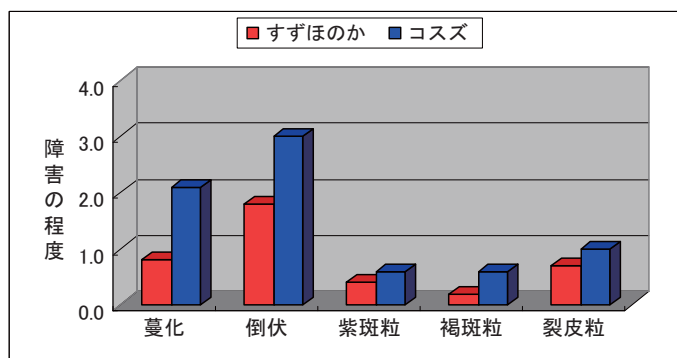


図2 生育中の障害と障害粒の程度（平成12～18年の東北地域の農試・農家圃場(延べ58カ所)の平均、障害の程度 無：0、微：1、少：2、中：3、多：4）

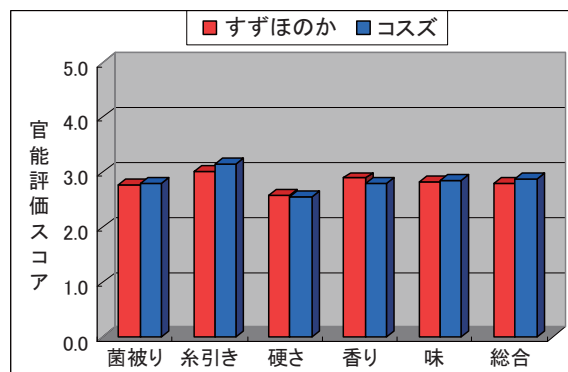


図3 納豆の官能評価(平成13～17年の育成地と福島産、延べ14点の平均)。
「スズマル」(北海道産)を標準(3.0)とする相対評価で、スコアが大きいほど好ましい。

成果の利活用

- ①栽培適地は東北全域で、「コスズ」との置換えにより普及が見込まれる。
- ②ダイズシストセンチュウに弱いため、連作やセンチュウ汚染圃場での栽培は避ける。